

# 平和運動センター通信 原水禁ヒロシマニュース

■発行：広島県平和運動センター  
原水爆禁止広島県協議会（広島県原水禁）  
■〒733-0013 広島市西区横川新町7-22 自治労会館 1階  
■TEL:082-503-5855 FAX:082-294-4555  
■E-mail:h-heiwa@chive.ocn.ne.jp  
■広島県原水禁 ホームページ <http://www.hiroshimaken-gensuikin.org/>  
ー子どもや孫たちに、戦争も核もない、美しい地球を！ー

No. 194

2017年  
2月号  
(2月1日)

発行責任者  
藤本講治

## ――目次――

- 1頁：2月の活動予定（2/1現在）
- 2頁：平和運動センター幹事会・地区労代表者会議開催（1月12日）  
安倍政権の暴走を止めよう！1・19街頭行動（1月19日）
- 3頁：「建国記念の日」に平和・民主主義・人権を守る2.11集会を開催します  
地区労だより（大崎地区労組会議）
- 4頁：「1.27ネバダ・デー」核兵器廃絶を求める市民行動  
「広島県原水禁第86回理事総会」開催（1月27日）
- 6頁：「2016原水禁学校・第4講座」開催（1月27日）
- 7頁：新聞に見る「ヒロシマ」（2016/12/23～1/27）
- 8頁：ご案内〔2016原水禁学校・第5講座〕  
〔2017年全国被爆二世交流会〕  
〔朝鮮学校高校無償化全国統一行動in広島集会〕  
〔部落解放広島県共闘会議第29回総会・学習会〕

### 【2月の活動予定】

- 1日(水)10:30 広島県被団協2017年新春代表者会議＝広島市平和ビル
- 13:00 平和フォーラム第5回運営委員会・原水禁第5回常任執行委員会＝連合会館
- 8日(水)13:30 広島朝鮮学校無償化裁判第16回弁論＝広島地方裁判所
- 9日(木)17:30 高校生平和大使・高校生1万人署名活動実行委員会サポーター会議＝広教組会議室
- 18:30 ストップ！戦争法ヒロシマ実行委員会世話人会＝広島弁護士会館
- 10日(金)13:00 「原水禁国民会議・長崎・広島」打ち合わせ会＝平和運動センター事務所
- 11日(土)10:00 紀元節復活反対！平和・民主主義・人権を守る2.11ヒロシマ集会＝自治労会館
- 12:00 部落解放広島県共闘会議第5回幹事会＝平和運動センター事務所
- 13:00 被爆二世相談日＝平和運動センター事務所
- 16日(木)18:30 広島地区労組会議第23回定期総会＝私鉄広電支部
- 17日(金)10:00 原爆被爆二世の援護を求める集団訴訟＝広島地方裁判所
- 17:30 平和運動センター第3回常任幹事会＝平和運動センター事務所
- 18:30 「原水禁学校第V講座」＝自治労会館
- 18日(土)11:00 部落解放・人権政策の確立を求める県民集会実行委員会＝福山市
- 18日～19日(日) 2017年全国被爆二世交流会＝ホテルチューリッヒ東方2001他

- 19日(日)14:00 朝鮮学校高校無償化全国統一行動 in 広島＝広島朝鮮学園  
 21日(火)13:30 部落解放中央共闘会議第41回総会＝日本教育会館  
           16:30 部落解放地方共闘会議常任幹事会＝日本教育会館  
 24日(金)17:00 「日朝友好広島県民の会」幹事会＝平和運動センター事務所  
           18:00 部落解放広島県共闘会議第29回総会・学習会＝自治労会館  
 3/1日(水)～2日(木) 平和フォーラム全国活動者会議＝静岡市  
           1日＝被災63周年ビキニ・デー集会(静岡市)   2日＝久保山愛吉さん墓前祭(焼津市)

## 平和運動センター幹事会・地区労代表者会議開催(1月12日)

＝「構成組織交流会」を3月25日に開催します。＝

1月12日、自治労会館において第2回常任幹事会・第1回幹事会・地区労代表者会議を開催しました。開会にあたり佐古議長は、「米国大統領に就任予定のトランプ氏は、人種差別、移民排除、女性蔑視、そして核戦力強化など物議を醸しており米国の外交政策を注視しなければならない。日本では、ナショナリズムが台頭しており人権確立・反基地闘争などを強化していかなければならない」とあいさつしました。



<2016/6/19/ワークピア広島>

活動報告では、「12.8不戦の誓いヒロシマ集会」や「世界人権宣言68周年広島集会」など、昨年12月から1月にかけて取り組んだ活動の報告を行いました。協議事項では、今年度の取り組み課題の確認や当面する取り組み(①「戦争法廃止」街頭行動を1月19日に行う。②「1.27ネバダ・デー」に核実験全面禁止を求めて座り込み行動を行う。③建国記念の日に「紀元節復活反対!平和・民主主義・人権を守る2.11ヒロシマ集会」を開催する。④朝鮮学校高校無償化全国統一行動(2月19日)に参加する。⑤部落解放広島県共闘会議第29回総会を2月24日に開催する。⑥福島原発事故から6年「フクシマを忘れない!さようなら原発ヒロシマ集会」を3月10日に開催する。)などを確認しました。また、毎年開催している「構成組織交流会」を3月25日、12時からワークピア広島において開催することを決定しました。構成組織においては、春闘期の取り組みで多忙な時期に入っていきますが、諸活動への結集をお願いします。

## 安倍政権の暴走を止めよう!1・19街頭行動(1月19日)

＝「沖縄米軍基地の押し付け撤回を求める街頭署名」実施＝

昨年9月19日に強行採決された「戦争法」。「戦争をさせないヒロシマ1000人委員会」では、新しい年の闘いのスタートとして1月19日、「安倍政権の暴走止めよう!自衛隊は南スーダンから撤退を!」と八丁堀・福屋前で約60人が街頭行動を行いました。当日は、全国で取り組まれている「沖縄県民の民意尊重と、基地の押し付け撤回を求める全国署名」も併せて実施しました。この署名は、昨年12月



末の最高裁判決を受けて、政府が辺野古での新基地建設工事の再開に着手するなか、沖縄県民と連帯して阻止行動を展開するための重要な取り組みであります。

3月31日の集約となっていますので、引き続き、職場や地域での取り組みをお願いします。

## 「建国記念の日」に平和・民主主義・人権を守る 2.11 集会を開催します＝日本の平和と人権について考える。

毎年2月11日に開催している「紀元節復活！平和・民主主義・人権を守るヒロシマ集会」。今年は、日本の平和と人権状況について考えていきます。集会では、部落解放同盟広島県連合会の岡田英治副委員長が「台頭する差別・排外主義～人権を基底に置いた社会を～」テーマに講演を行います。

安倍政権の憲法・沖縄・原発・TPP・労働・年金などの分野での暴走が続いているだけに、命と平和を脅かす動きを許すわけにはいきません。今後の私たちの運動も問われています。2.11集会に多くの方の参加をお願いします。

「紀元節復活反対！平和・民主主義・人権を守る2.11ヒロシマ集会」

◇日時 2月11日（土）10時～12時

◇場所 自治労会館3階 大会議室

◇講演 台頭する差別・排外主義～人権を基底に置いた社会を～

講師：岡田英治さん（部落解放同盟広島県連合会副委員長）

## 地区労だより【大崎地区労組会議】

### ＝悩みも多いですが活動が前に進むよう取り組みます＝

地区労の現状を報告します。大崎地区労では、これまで反核平和の火リレーや草の根平和行進などの取り組み、地区内でおきた諸課題について議論し活動を行ってきましたが、単組数や組合員数の減少により以前と比べて活動がうまく機能していない状況であります。

その中で、各単組における職場環境は年々厳しく、運動を継続していくには大変難しい現状があり苦慮しているところではありますが、毎年、継いでいくことができています。しかし、課題は山積しており、実行委員会の立ち上げも以前は地区内の仲間が集まり、企画立案し物事を進めていきましたが、今では自治労青年部が主体となり、スタッフの手配やランナーの確保などを担っています。本来であれば、地区内の仲間が集まり、共有し合いながら進めていければ一番いいのですが、それもままならない状況です。

草の根平和行進においても、担当区間を受け持ち、継いでいきましたが、それもできない状況となっています。そうした中ではありますが、被爆地ヒロシマの思いを後世に伝え継承していかなければという意識のもと、少ない人数ではありますが反核平和の火リレーや草の根平和行進に参加している仲間がいます。そのことが運動を展開していく上での希望となっているところもあります。こうした仲間を一人でも増やしていくことが大切ではと思っています。

今後の取り組み方についてですが、もっとも重要な案件であります担い手の育成が喫緊の課題であります。参加の有無は別として、地区労の会議を通して提起を行い、情報



共有することにより少しずつでも意識を高めていくことが重要ではなかろうかと思っています。地区労の活動としては、ほとんどできていない現状がありますが、少しずつでもより良い方向に進んでいけるよう取り組んでいかなければと考えています。

私たちのいる地区労は、人数も少なく、各種活動もままならない状況であり、平和運動センターや各地区労のみなさんに負担やご迷惑をおかけすることもあると思いますが、今後においても協力し合いながら、運動を推進・展開していければと考えていますので、よろしく願います。（大崎地区労組会議事務局長 宮地丈彦）

## 「1.27ネバダ・デー」核兵器廃絶を求める市民行動

### ＝「核廃絶」求め原爆慰霊碑前で70人が座り込む＝



1月27日、12時15分から県原水禁・県平和運動センターの呼びかけで、原爆慰霊碑前に約70人が参加して、「1.27ネバダ・デー・核実験全面禁止、核兵器廃絶を求める市民行動」を行いました。

座り込みにあたり県原水禁金子哲夫代表委員は、「被爆地広島では核兵器の廃絶、ネバダの核実験場の閉鎖を求めて毎年、国際行動として座り込みを行っている。『核兵器禁止条約』の制定交渉が3月から

始まるが、広島もこうした国際社会の動きに連帯して取り組みを進めていかなければならない」とあいさつしました。

座り込みの最後にネバダ核実験場の閉鎖、核兵器全面・核兵器禁止条約の実現、原発の再稼働反対などの「ヒロシマからのアピール」を参加者一同で採択しました。

アピール文は、同日に安倍晋三内閣総理大臣と米国ドナルド・ジョン・トランプ大統領に送付しました。

## 「広島県原水禁第86回理事総会」開催（1月27日）

### ＝「核兵器禁止条約」の制定をめざそう！＝

1月27日、自治労会館において広島県原水禁第86回理事総会を開催しました。座長に中尾泰美常任理事（I女性会議）を選出し開会しました。

開会のあいさつで県原水禁佐古正明代表委員は、「昨年はG7外相会合の広島開催、米国オバマ大統領の被爆地ヒロシマ訪問など歴史的な1年であった。今年早々にトランプ新大統領が就任、核政策など今後の動向を注視しなければならない。また、国連で始まる核兵器禁止条約制定交渉に日本政府が被爆国としてどう臨むのか、県原水禁としても働きかけを強めていかなければならない。原水禁運動を次世代につなげていくのが大事である。三度、悲劇を繰り返さないため我々は頑張らなければいけない」と述べました。

総会では、連合広島の久光博智会長から連帯のあいさつと松井一實広島市長のメッセージ紹介の後、核や原発、ヒバクシャの様々な課題について、「核兵器禁止条約」制定に向けて取り組みを強化していく。ヒバクの実相を継承する取り組みとして、昨年度に引き続き「2017原水禁学校」を開催する。フクシマに連帯する取り組みとして「福島原



発被災地フィールドワーク」を実施する。などの活動方針を決定しました。

最後に「原爆の惨禍を体験した私たちヒロシマは、被爆者の課題、被爆の実相・被爆体験を継承し、原水爆禁止の運動、被爆者援護の運動に全力で取り組んでいこう」との総会決議文を採択し総会を終了しました。

### 「広島県原水禁第86回理事総会」決議文

東日本大震災によって原子力史上最悪の原子力災害を引き起こした東京電力福島第一原発事故から6年が経ちました。しかし、被災地福島では、8万人近い被災者がいまでも苦しい避難生活を余儀なくされている現実の中で長期にわたる避難生活は、暮らしや健康、就労など多くの不安と負担を与えています。さらに保障の打ち切りは、「棄民」政策ともいえるもので被災者に寄り添う姿勢に欠けるものです。被災者の不安解消や補償、医療の充実などを早急にはかからなければなりません。「命」に寄り添う私たちの運動の真価が問われています。

福島原発事故以降、多くの国民は脱原発社会を求め、再生可能エネルギーへの転換を求めてきましたが、政府・電力会社はこうした声を無視して、川内原発（鹿児島県）、高浜原発（福井県）、さらに伊方原発（愛媛県）と相次いで再稼働を強行しました。

安全な原発などありません。今後も原発再稼働を許すことなく、早急にすべての原発の廃炉を求める必要があります。原水禁は、「核絶対否定」の立場から核の商業利用など原発政策に反対し続けてきました。私たちは、「核と人類は共存できない」ことを再確認し、あらゆる核実験の禁止、原発再稼働を許さず脱原発による持続可能で平和な社会を実現するため、被爆地ヒロシマからさらに運動を強めます。

被爆から71年が過ぎて、被爆者は高齢化や病弱化が進み、被爆者を取り巻く環境は年々厳しくなっています。被爆者の残された課題を解決する時間も限られ、援護対策の充実と国家の責任を問うことがあらためて急務となっています。原爆の惨禍を体験した私たちヒロシマは、被爆者の課題、被爆の実相・被爆体験を継承し、原水爆禁止の運動、被爆者援護の運動に全力で取り組んでいきます。

私たちは訴えます。

- ◆「核兵器禁止条約」の制定に向け、被爆国・日本の核政策転換を求めよう！
- ◆原水禁・連合・KAKKIN3団体での核兵器廃絶に向けた運動の強化をはかろう！
- ◆核廃絶・原水禁運動を強化し、東北アジアの非核地帯化と非核三原則の法制化を実現させよう！
- ◆原発の再稼働、新增設に反対し、核に頼らないエネルギーに転換しよう！
- ◆フクシマとの連帯を強化し、すべてのヒバクシャの援護と権利確立に向け、国家補償の精神にもとづく法制化を進めよう！
- ◆戦争への道を突き進む安倍政権の暴走を阻止し、憲法9条を守り、憲法改悪に反対しよう！
- ◆ノーモア・ヒロシマ、ノーモア・ナガサキ、  
ノーモア・フクシマ、ノーモア・ウオー！

以上、決議とします。

2017年1月27日

## 「2016原水禁学校・第4講座」開催（1月27日）

### ＝「世界の核被害者～核開発は何をもたらしたか～」＝

1月27日、「原水禁学校・第4講座（講師：森瀧春子・核兵器廃絶をめざすヒロシマの会共同代表）」を開催し、55人が受講しました。

講座は、「世界の核被害者～核開発は何をもたらしたのか～」をテーマに、核被害に苦しむ世界各地の現実と現地の人々の反核運動の取り組みについて講演いただきました。森瀧さんは、「インドのウラン鉱山やイラクの劣化ウラン被害そして福島原発事故など現地の実態に触れながら、核被害の実態をグローバルに知っていかねばならない。また、核兵器禁止条約の実現に向け世界と連帯しなければならない」と訴えられました。講座の内容は、「ヒロシマの心を世界に」ブログ（県原水禁金子哲夫代表委員）から紹介します。



森瀧さんの講演は、直接現地に足を運び、目の当たりにした被害の実相を自らが映した写真を交えて報告されました。その一つが、「核開発の入り口―インドのウラン鉱山」で起きている核被害の実態でした。「インドとの関りは、インド・パキスタンが核開発競争を競っていた1997年に初めてインドを訪問して以来、反核キャンペーンを繰り返すとともに、両国の若者たちを広島での平和学習に招くプロジェクトを実施してきました。その中で2000年インドのウラン鉱山の実態を描いたドキュメント映画『ブッダの嘆き』と出会ったことで、インド国内におけるウラン鉱山開発がもたらすすさまじい被害の実態に衝撃を受け、映画の上映会を進めるとともに2001年インド東部ジャドゥゴダ・ウラン鉱山を訪れました。」

「そこで出会った子どもたちの小頭症、巨頭症、多指症、知的障害などに蝕まれた姿は忘れることができません。」「周辺に住む先住民には、放射能汚染による深刻な被害をもたらしています。ウラン採掘から出る大量の放射性廃棄物が、深刻な健康被害を多発させています。2003年には、京都大学原子炉研究所の小出裕章氏の協力を得て現地調査を行った」ことを話しながら「悲惨な犠牲を先住民とその地域に強いながら、ジャドゥゴダ鉱山は、インドの核兵器や原発にウランを供給してきた。」とその核被害の実情をつぶさに報告されました。

二つ目の報告は「イラクにおける劣化ウラン被害」です。

「1999年、初めて劣化ウラン兵器のもたらす被害に触れた。そして2002年12月に初めてイラクの劣化ウラン弾被害を現地で確認した。さらに2003年6月から7月に再訪し、改めて現地を調査。イラク南部の中心都市バスラの産科・小児科病院を訪ねると、小児がん病棟のベットに横たわる子どもたちの多くは、白血病、悪性リンパ腫、肝臓がんなどを患い、その上先天的な身体的、知的障害を持っていた。医師たちは、『ほとんどは末期であり、助からない』と苦渋の面持ちで説明した。」

放射性兵器である劣化ウラン弾の深刻な被害の実情が報告されました。森瀧さんは、「イラクでも金沢大学などの協力を得て、科学的な調査も実施した。」と話されました。

さらに「現地で向き合う福島原発事故」と福島問題にも触れられました。

森瀧さんは、まとめとして自身が中心となって2015年11月に開催した「核被害者フォーラム」で採択された「広島宣言 世界核被害者の権利憲章要綱草案」の「核時代を終わらせない限り人類はいつでも核被害者＝ヒバクシャになりうることを認識して、核と人類は共存できないことを宣言する。」を紹介し、さらに森瀧市郎先生が鋭く指摘された「力の文明＝核の時代 ●核開発は、国家や大企業の強き側による使用される弱き

者への差別抑圧、人権無視の上になりたつ。●核文明の根底には一権力による支配抑圧するものと 権力によって差別抑圧、無視されるものとの関係が横たわる。」ことを強調して、講演を終えられました。

自らが現地に行き、直接体験したことを中心にした今回の森瀧さんの講座は、若い受講生も多かっただけに深い感銘を与えることとなりました。(金子哲夫)

新聞に見る「ヒロシマ」(2016/12/23~1/27)		
見出しから	日付	新聞
広島市長 核兵器禁止条約 議論働きかける	12.23	朝日
沖縄側「負担減ならぬ」 米軍訓練場返還	12.23	中国
上関原発埋め立て免許延長 国の見解根拠に転換	12.24	中国
オバマ米大統領の広島訪問 核問題へ関心高める	12.25	中国
平和アパート解体決まる 広島市	12.28	朝日
「核禁止条約」主導を 「不戦」実現へ行動求める	12.29	中国
廃絶めぐるこの1年 核なき世界 進んだか	12.29	朝日
平和記念資料館 新資料展再開へ	12.30	朝日
原爆ドーム北側の景観保全 建物高さ 法規制検討	1.3	中国
艦載機移転 ことし着手 岩国へ厚木から	1.4	中国
被爆直後の子ども救援	1.4	中国
艦載機移転「ことし後半」 米軍が非公式伝達	1.5	中国
空母艦載機 厚木から岩国移転	1.6	中国
大統領退任後も 核廃絶へ連携を	1.7	中国
「禁止条約」交渉 国連で3月から	1.7	中国
オスプレイ空中給油再開 「沖縄不在」容認に怒り	1.7	中国
平和資料館敷地 墓地と人骨出土	1.7	朝日
被服支廠の保存活用検討	1.11	中国
変わる岩国基地 艦載機移転問題(上)	1.12	中国
坪井被団協の事務局長 前田さん 行政経験生かし恩返し	1.12	朝日
変わる岩国基地 艦載機移転問題(下)	1.13	中国
核なき世界への鍵 被爆地訪問 踏襲願う	1.15	中国
核なき世界への鍵 ヒバクシャ署名 痛み押し「最後の運動」	1.16	中国
被服支廠 有識者と議論	1.18	中国
北の地に 2世の会構想 被爆72年の冬	1.18	朝日
オバマ氏退任後も連携 広島市長 核兵器廃絶に向け	1.19	中国
原爆ドーム北側 建物に高さ制限	1.19	朝日
旧日銀支店一部 博物館に	1.20	中国
核なき世界への鍵 条約づくり橋渡し役を	1.20	中国
高見沢軍縮大使 広島訪問	1.21	朝日
改修中の東館 3月下旬開館 平和記念資料館	1.21	朝日
トランプ大統領就任 被爆者 広島訪問呼び掛け	1.22	中国
放影研理事長 前身の研究に見解	1.24	朝日
東区の饒津神社 被爆手水鉢を補修	1.24	朝日

エノラ・ゲイから写すキノコ雲 新たに	1.25	朝日
原爆関連写真 2100点収集	1.25	中国
国際刑事裁に「平和の鐘」	1.26	中国
福屋保存に初適用 広島市被爆建物	1.27	中国

## 【 ご 案 内 】

### ■ 2016 原水禁学校・第5 講座

◇開催日 2月17日(金) 18時30分～20時

◇場 所 自治労会館3階 大会議室

◇内 容 福島原発事故と脱原発運動

講師：角田政志さん(福島県平和フォーラム代表)

### ■ 2017 年全国被爆二世交流会

◇開催日 2月18日(土) 13時30分～19日(日) 12時

◇場 所 ホテルチューリッヒ東方2001(18日) ワークピア広島(19日)

### ■ 朝鮮学校高校無償化全国統一行動in広島集会

◇日 時 2月19日(日) 14時～15時30分

◇場 所 広島朝鮮学園4階 多目的ホール

◇内 容 無償化裁判状況の報告、意見発表、集会アピールなど

### ■ 部落解放広島県共闘会議第29回総会・学習会

◇開催日 2月24日(金) 18時～20時

◇場 所 自治労会館3階 大会議室

◇内 容 総会、講演「在特会による徳島県教組襲撃事件裁判から見えてくる社会」

講師：富田真由美さん(元徳島県教職員組合書記長)